

複数内定の比較シート

1 比べる前に、自分の必須条件を決める

働き続けるために必要な条件を先に決め、各社の本人向け回答と照合します。
重要な不一致や未確認を、給与・通勤の良さによる加点で相殺しません。

同じ条件で比較 2頁

返答期限の確認 4頁

手元で使う独自の比較票です。サイトへ提出しません。候補はA・B等の仮称で記録し、
利用者・家族・職員の個人情報や非公開原本を書き込まないでください。

記録番号 _____

必須条件と、その理由 満たせないと働き続けられない条件

調整できる希望と、許容できる範囲・優先順位

自分でもまだ決めていないことと、決めるために必要な情報

いつまでに、どの条件を確認したいか

条件を見直す場合の変更内容・日付・理由 元の条件も残す

架空例：水曜勤務なし、税引前の月額固定分28万円以上を必須条件にします。
通勤時間や希望業務は調整可能な条件。誰にでも勧める基準や相場ではありません。

関連記事 使い方と考え方を読む

<https://kaigo-mgr.com/multiple-offers-decision/#practice-table>

複数内定の比較シート

2 二社を、同じ項目・範囲・時期で並べる

比べる項目ごとに複写します。

各社の募集・面接・最終書面に相違があれば、先にその会社へ確認します。

架空例：A30万円、B28万円。いずれも基本給と毎月固定の手当を合わせた税引前月額。
固定残業代・賞与・通勤費・回数で変わる手当は含みません。両社とも必須額以上でも、
水曜の勤務条件がそろったかは別に確かめます。年収・手取り・総合点には換算しません。

記録番号 _____

比べる項目・単位・含める範囲と、自分の必須／希望条件

候補Aの本人向け条件と、根拠資料の種類・版・回答日

候補Bの本人向け条件と、根拠資料の種類・版・回答日

適用開始日・対象期間・通常時と例外時 A／Bを分ける

まだ同じ条件で比べられない点と、追加で確かめること

不明な手当や賞与を0円にしません。入職初年度と通常年、月額と年額、通常週と
欠員時の勤務を混ぜず、詳しい給与・勤務の条件を確かめてから比較欄へ戻ります。

参考 厚生労働省 モデル労働条件通知書 本人の勤務・賃金等の確認項目
<https://www.mhlw.go.jp/content/001696984.pdf>

公的様式の複製ではありません。全項目を一律の書面明示義務とは扱いません。

複数内定の比較シート

3 状態と根拠を分け、追加質問を作る

一つの未確認や相違ごとに複写します。確認できたことと、自分の条件に合うことは別の判断です。

確認済み：本人条件と根拠を確認 ／ 相違あり：説明や資料の間に差がある
未確認：必要な回答・根拠がない ／ 対象外：本人への適用がないと具体的に確認
必須条件との一致・不一致は別に記録。未確認を対象外や0点へ変えません。

記録番号 _____

候補・項目・現在の状態と、本人の必須条件との一致／不一致

根拠の種類・回答した部署や役割・回答日と適用範囲

残る不明や相違が、自分の判断に影響する理由

確定できる担当部署へ聞く質問と、必要な資料

回答を希望する日・相手の回答予定・未回答時の次の確認

架空例：Aの「水曜は調整できると思う」は未確認。月1回は水曜勤務が必要なら
必須条件と不一致。水曜勤務なしが本人条件として確認できれば、候補として比べ直します。

見込みの説明と決定した条件を同じ印だけでまとめません。対象外にも根拠を残し、
最終的な本人の条件を誰が決めるかを確かめてください。

複数内定の比較シート

4 条件回答と、内定への返答期限を分ける

条件の回答予定が延びても、内定の返答期限が延びたとは限りません。延長希望と承認を別に記録します。

記録番号 _____

候補Aの返答期限 年月日・時刻、伝えた部署・日付・根拠

候補Bの返答期限 年月日・時刻、伝えた部署・日付・根拠

追加条件の質問先と回答予定日 A／Bを分け、未定は未定と記入

延長を相談する候補・理由・希望期限・相談する日

延長の可否と正式な新期限 回答した部署・日付・根拠

期限まで未回答ならどうするかと、次に確認・相談する日

架空例：Aは10月12日17時、Bは16日17時。Aへ14日17時までの延長を希望。

認められた回答がなければ、新期限として扱いません。標準の延長日数や権利の例ではありません。

条件の照会、期限の相談、受諾・辞退の意思表示は別の連絡です。

この票は比較と確認の準備用で、内定承諾書や辞退通知書ではありません。

複数内定の比較シート

5 選ぶ理由と、判断を待つ理由を書く

必須条件がそろった候補の中で、自分が優先する希望を比べます。
どちらも合わなければ、候補を広げられます。

架空例 回答が変われば、選択肢も変わる

Aが水曜勤務を必要とし、変更もできないなら、水曜勤務なしを確認できたBを検討。
Aも水曜勤務なしを確認できれば、通勤や希望業務の条件を比べ直します。
重要な回答がないまま期限を迎える場合は、その不明を引き受けられるかを自分で判断します。

記録番号 _____

各候補の必須条件と根拠 一致／不一致／未確認を分ける

優先する希望と、その理由

条件変更が必要な候補と、変更可否の回答

選ぶ方向／再確認／保留／候補を広げるという判断と理由

意思を伝える前に、最終条件・残る不明・返答期限を確認する

架空の理由文：「必要な曜日と固定月額が確認できたBを、通勤の短さを優先して
検討する」。事実や希望が変わったら書き直し、そのまま意思表示として送らないでください。

参考 厚生労働省 労働条件明示の改正案内 契約・更新等の時点を区別
<https://www.mhlw.go.jp/content/11200000/001298245.pdf>